

下のQRコードより入っていただけます。
俵小ホームページ 俵小X (旧 Twitter)



全国学力・学習状況調査の結果から

本年度も4月に、「全国学力・学習状況調査」が実施され、本校6年生児童が調査に取り組みました。文部科学省より調査結果が送付されましたので、その概要ならびに分析結果をお伝えします。なお、調査結果についてはすでに教職員で共有しており、2学期からの授業改善及び様々な教育活動に活用していきたいと考えております。

調査目的 ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

調査概要 ・実施日 令和7年4月17日(木) ・調査対象 小学校6年生

・調査事項 児童：教科調査【国語、算数、理科】/質問調査

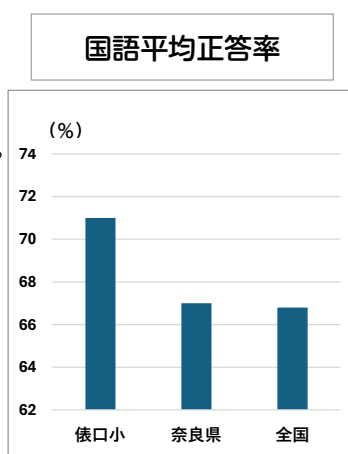
・調査問題 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

国語

① 全体的な傾向

平均正答率は、奈良県平均及び全国平均より高い値となりました。学習指導要領に示された内容に照らすと、思考力、判断力、表現力等の「A 話すこと・聞くこと」と知識及び技能の「(2) 情報の扱い方に関する事項」に関する事柄を問う問題については、正答率が高い傾向が見られました。無回答率については、解答を選択する問題の多くで、奈良県・全国平均に比べて高くなる傾向が見られました。

一方、解答を記述する問題では、県や全国と比べて無回答率は低く、本校の児童は最後まで諦めず粘り強く書く問題に取り組む姿が窺えます。



② 解答状況から見た本校6年生児童の特長

・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる力を、しっかりと身に付けている傾向が見られました。

・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる力を、しっかりと身に付けている傾向が見られました。

・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力を、概ね身に付けている傾向が見られました。

③ 解答状況から見た本校6年生児童の課題

・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる力にやや課題のある傾向が見られました。

・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる力に課題がある傾向が見られました。同音異義語がたくさん

ある場合は、文脈を理解して正しい漢字を書くことが大事になり、繰り返し練習す

「あついに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。」

る必要があると考えます(図1)。

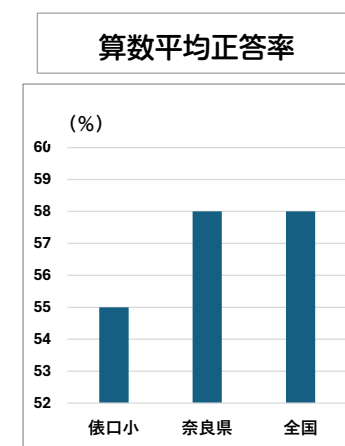
図1 国語問題 ②一四一イ

・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる力にやや課題がある傾向が見られました。文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えることや伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要と考えます。

算数

① 全体的な傾向

平均正答率は、奈良県平均及び全国平均より低い値となりました。正答数の分布を見ると、奈良県や全国と比べて、上位層と下位層のやや両極に分かれる傾向が見られます。学習指導要領に示された内容に照らすと、「C 測定」「C 変化と関係」が奈良県平均や全国平均よりわずかに高いかほぼ同等、「A 数と計算」「B 図形」「D データと活動」では、奈良県平均や全国平均よりやや低い正答率を示しました。



② 解答状況から見た本校6年生児童の特長

- ・「D データの活用」の領域で、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる力をしっかり身に付けている傾向が見られました。
- ・「B 図形」の領域で、台形の意味や性質について理解する力を概ね身に付けている傾向が見られました。
- ・「A 数と計算」「C 変化と関係」「D データの活用」の領域で、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる力をしっかりと身に付けている傾向が見られました。
- ・「C 測定」の領域で、はかりの目盛りを読む力を概ね身に付けている傾向が見られました。

③ 解答状況から見た本校6年生児童の課題

- ・「D データの活用」の領域で、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる力に課題のある傾向が見られました。
- ・「A 数と計算」の領域で、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる力に課題のある傾向が見られました。
- ・「B 図形」の領域で、平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図することができる力について課題のある傾向が見られました(図2)。
- ・「B 図形」の領域で、基本図形に分解することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する力に課題のある傾向が見られました。
- ・「A 数と計算」の領域で、異分母の分数の加法の計算をする力について課題のある傾向が見られました。

上記のことから、計算の方法や図形の作図等の基礎基本の再確認や表やグラフ等から適切な情報を読み取って言葉や数を用いて記述する練習が必要と思われます。また、算数の授業で学んだことが児童の日常生活で生かせるような授業の工夫にも取り組んでいくことが大切と考えます。

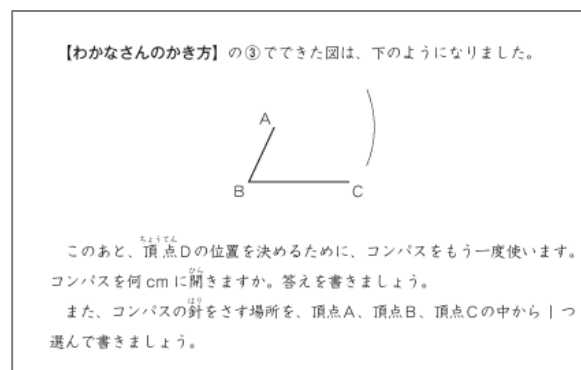
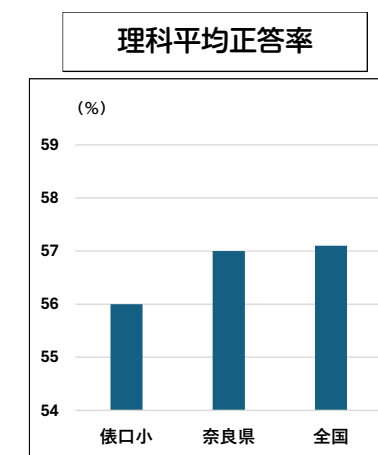


図2 算数問題 ②-(1)

理科

① 全体的な傾向

平均正答率は、奈良県平均や全国平均よりやや低い値となりました。学習指導要領に示された領域に照らすと、『A 区分「エネルギー」を柱とする領域』では、奈良県平均や全国平均と同程度の正答率を示しました。無回答率については、17問中4問で奈良県平均や全国平均とほぼ同じ値を、残りの13問で奈良県平均や全国平均よりも高い値を示しました。



② 解答状況から見た本校6年生児童の特長

- ・『B 区分「地球」を柱とする領域』で、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する力をしっかりと身に付けている傾向が見られました。
- ・『B 区分「地球」を柱とする領域』で、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する力を概ね身に付けている傾向が見られました。
- ・『A 区分「エネルギー」を柱とする領域』で、電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現する力を概ね身に付けている傾向が見られました。
- ・『A 区分「粒子」を柱とする領域』で、水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力を、概ね身に付けている傾向が見られました。

③ 解答状況から見た本校6年生児童の課題

- ・『A 区分「エネルギー」を柱とする領域』と『A 区分「粒子」を柱とする領域』で、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識に課題のある傾向が見られました。
- ・『A 区分「エネルギー」を柱とする領域』で、電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識に課題のある傾向が見られました。

・『B 区分「生命」を柱とする領域』で、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識に課題のある傾向が見られました。

・『B 区分「地球」を柱とする領域』で、氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解することに課題のある傾向が見られました（図3）。

上記のことから、自然の事物・現象と知識を関連付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることや知識を他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解することが大切となります。観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら、知識が身に付くように意識した授業づくりを進めていくことが大切と考えます。また、学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断する力を付けるために、知識を身に付けることの重要性を意識した授業改善を進めることが必要と考えます

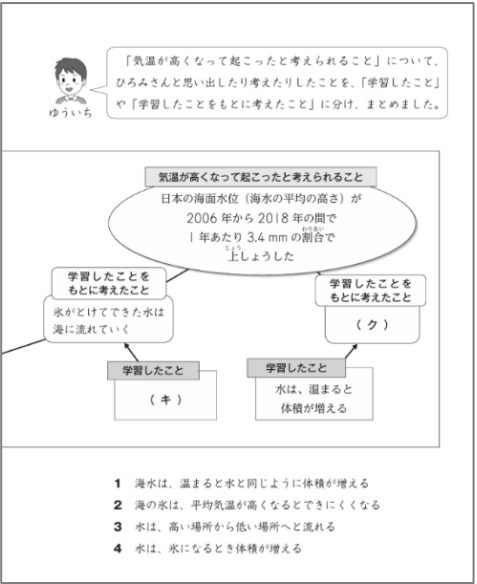


図3 理科問題 4-(3)キ

児童質問紙

① 回答状況から見た本校6年生の特長

・質問番号(5)「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が50.8%でした。同じ質問に対する過去3年間のデータを見ると、児童の自己肯定感が向上してきているのが分かります。様々な学習や活動を通して、児童のよいところを積極的に認めていく取組やお互いを認め合う受容的かつ寛容な雰囲気の結果に影響していると思われます（図4）。

回 答	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
当てはまる(%)	22.2	34.2	38.1	50.8

図4 質問番号(5)に「当てはまる」と回答した児童の割合

・質問番号(6)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合の和が96.8%となりました。また、質問番号(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも高い値を示しました。学習に対して丁寧なフォローアップができていていると考えます。高学年での教科担任制が定着し、学年全体で児童のよいところを見つけて認めていく、専門性の高い授業をもとに個人差に対応したきめ細かい指導をこれからも心掛けていきたいと思ひます。

・質問番号(27)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」に回答した児童の割合の和が90.4%でした。児童のだれかのために役に立ちたいという思いを大切に、地域の団体とも連携しながら、ボランティア活動等を積極的に進めていけたらと思ひます。

・質問番号(28)「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対し、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」に回答した児童の割合の和が73.1%という値でした。授業の中でタブレットを積極的に活用していることがよく分かります。特に本校では、4割以上の児童が、1日に複数の授業で活用していると回答しており、どの教員もタブレットを活用した授業を展開していることがうかがえます。

・質問番号(67)「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の和が98.4%となりました。また、質問番号(68)「理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるか、自分で予想（仮説）を考えていますか」に対し、「当てはまる」に回答した児童の割合は、奈良県平均や全国平均より20ポイント以上も高い値を示しています。教科担任制を基盤として、観察や実験の機会を充実させたり、課題に対して自分の考えをしっかりとって学習を進めたりしている様子がうかがえます。質問番号(61)「理科の勉強は好きですか」に対しても8割以上の児童が肯定的な回答をしていることから、体験を重視した学びや深い思考を伴う学びによって次の学習意欲へとつながる「学びの好循環」が生まれていると考えます。

・質問番号(39)「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも高い値を示していました。学習や生活の様々な場面

で、たとえ困難な状態に当たっても、お互いを尊重して協力しながら解決していく児童の姿が見られます。児童一人一人を大切にしながら、主体性や協働性を高める取組をこれからも続けていきたいと思っています。

② 回答状況から見た本校6年生児童の課題

- ・ 質問番号(3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対し、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合の和が、奈良県平均や全国平均より高い値を示していました。家庭とも結果を共有し、規則正しい生活習慣を身に付けられるよう、取り組んでいきたいと思っています。

- ・ 質問番号(8)「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和は、奈良県平均や全国平均より低い値を示しています。課題は少しずつ改善されてきたと考えられますが、引き続き親和的な学級・学年づくりや進んで声をかけられる勇気等、様々な場面で育てていけるよう尽力したいと思っています。

- ・ 質問番号(12)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合は、奈良県平均や全国平均より高い値を示しています。一方「当てはまらない」と否定的な回答をした児童の割合も、奈良県平均や全国平均に比べて高い値となっています。学校が児童にとって楽しい場所になっているか、回答の両極化が進んでいることが見て取れます。どの子にとっても学校が居心地のよい場所になるよう、教職員で協力して工夫していきたいと思っています。

- ・ 質問番号(53)「算数の勉強は好きですか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和は、奈良県平均や全国平均より低い値を示しています。また、質問番号(56)「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」や質問番号(58)「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より低い値を示していました。生活の中で学んだことを生かせることや考え方の道筋を確認できるような授業を工夫しながら、算数の学習意欲が高まる取組を進めていきたいと思っています。